

●手付かずの自然満喫

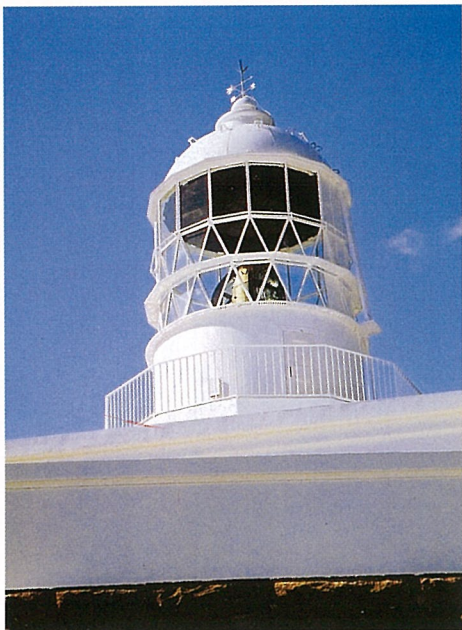
南郷町沖合に日南海岸国定公園で最大の島「大島」が浮かぶ。周囲九・五^キ。南北に細長い形は、テレビでおなじみの「ひよっこりひよろうたん島」を連想させる。

島内と周辺海域は自然が豊か。透明度のある海にはサンゴ、磯には南方系の貝類が生息。周辺の小島や岩礁には魚が豊富で、特に島の南にある岩礁・水島は磯釣りの好ポイント。島へは南郷町・目井津港から定期船「あけぼの3号」が一日六往復運航され、島の中央「竹の尻港」まで約九分、そこから北部の「小浜港」まで六分。現在、十世帯十九人が生活している。

島に上がると、南端の鞍埴灯台まで遊歩道が整備され、小浜港から約一時間十五分、竹の尻港から約五十分の行程。遊歩道沿いには、亜熱帯や温帯の植物が多く、特に幹回り約八^{メートル}、高さ約二十^{メートル}のアコーの大木は有名。島の東側は

険しいがけが続ぎ、手付かずの自然を満喫できる。宿泊施設は小浜港、竹の尻港の近くに民宿が一軒ずつある。このほか、大島小学校（一九八〇年閉校）跡に宿泊施設「アドベンチャーキャビン」（三部屋）と「ファミリリーコテージ」（二棟）が建てられ、バーベキュー施設をはじめ、夏には子供用プールもあり、研修や島内散策の拠点として一年中活用できる。

鞍埴灯台は島の南端にあり、日本有数の古い歴史を持つ。完成は一八八四（明治十七）年八月。フランス人による設計と伝えられ、コンクリート造り十四角形の洋式建築。建設当時は八万^{ワカ}、光遠距離二十四^{カイ}（一^{カイ}は千八百五十二^{メートル}）。一九二四（大正十三）年に十三万^{ワカ}に増強された。終戦直前の四五（昭和二十）年七月、米軍の空襲を受け、ガラスレンズ、機械などに損害を受けた。戦後は物資不足の中、限られた機材で



大島のシンボル・鞍埴灯台。船舶の安全航行に照らす

辛うじて灯台としての使命を果たし、五一（同二十六）年、完全に修復された。現在、四国の土佐岬と県北の細島港口までを直線で照らし、船舶の安全航行に活躍している。

島の対岸には目井津港、外浦港のほか、昔から良港として栄えた日南市・油津港、大堂津港がある。いずれも大島の恩恵を受けて波が静か。出入りの船も多い。

マリンスポーツをするもよし、目井津港から高速船をチャーターして島めぐりをするもよし。自然がいっぱいの大島には、夢もいっぱい詰まっている。

長友禎治